

サンフランシスコにおけるチャイナタウンの形成と変容

— ゴールドラッシュからニューチャイナタウンの形成まで —

山下清海

キーワード：カリフォルニア，サンフランシスコ，チャイナタウン，華人，ゴールドラッシュ

I はじめに

アメリカ華人社会に関する研究は、歴史学、文化人類学、社会学をはじめさまざまな分野から研究がなされ、多数の研究成果の蓄積がある。1970年代以降、エスニック・スタディーズの発展により、特にアジア系アメリカ人研究において、華人女性、華人文学に焦点を当てたものやライフヒストリー研究など華人を対象とした研究は多様化してきている。

カリフォルニアの華人社会の歴史的研究においては、ライ (Him Mark Lai, 中国名: 麦禮謙) の役割が大きい (麦, 1992; ライ, 2012; Chinn et al. eds., 1969)。また、Chinn (1989) は、多くの華人のライフヒストリーを中心に、サンフランシスコのチャイナタウンおよび華人社会の変容を描写している。劉 (1976, 1981, 1984) は、アメリカ華人の歴史を総合的に考察したものであるが、その中でサンフランシスコの華人社会の歴史について詳細に論述している。サンフランシスコの華人社会の社会構造について、内田 (1976) は、広東人の同郷会館、姓氏団体、秘密結社などを中心に、現地調査にもとづいて明らかにしている。園田 (2009) は、サンフランシスコの初期のチャイナタウンの華人の団体組織、経済活動、本国 (清国) との政治的関係などについて分析している。また、サンフランシスコにおける華人排斥運動や

連邦政府の華人移民政策については、貴堂 (2012) が詳細に検討している。

以上、概観したように、サンフランシスコの華人社会に関する研究では、華人社会の組織や経済活動、ホスト社会との関係などについて歴史的に解明を試みた研究が多い。アメリカの華人社会について、地理学サイドからのアプローチは少ない。古くはMurphey (1952) が、ボストンのチャイナタウンの形成過程やアメリカの移民集団における華人のユニークな性格について論じた。この例にみられるように、華人社会を対象とした研究において、地理学的観点からの重要な研究テーマの1つとして、チャイナタウンの形成・変容に関する研究があげられる。チャイナタウンがどのような場所に、いかにして形成され、それがどのように変容していったのか、また、その要因は何か、などについて考察することは、華人社会研究において地理学が大きく貢献できるテーマであろう。杉浦 (2007) は、シアトルのチャイナタウンの形成とその後の変容について考察にしている。また、矢ヶ崎 (2016) もロサンゼルス大都市圏に形成された様々なエスニックタウンについて論じる中で、チャイナタウンの特色を指摘している。

華人社会に関する研究では、歴史的な研究が多いため、中国の改革開放政策後、大量に新華僑が流入してオールドチャイナタウンがどのように変容し、また、ニューチャイナタウンがいかにして

形成され、変容していったのかについての研究は不十分である。

サンフランシスコのチャイナタウンは、アメリカ最大のチャイナタウンの規模を誇ってきたが、1980年代以降、新華僑の流入により拡大したニューヨーク・マンハッタンのチャイナタウンにその規模を抜かれた。しかしながら、サンフランシスコのチャイナタウンは、その形成以来、アメリカ華人社会の中心地としての役割を果たしてきた。

そこで本研究では、アメリカで最初の華人社会およびチャイナタウンが形成されたサンフランシスコを対象に、ゴールドラッシュに伴いサンフランシスコのチャイナタウンがいかにして形成され、その後どのように変容していったのかを明らかにする。また、ダウンタウンのオールドチャイナタウンとは別に新しく郊外に形成されたニューチャイナタウンの形成・変容についても考察することを目的とする。

筆者は、1994～95年にカリフォルニア大学バークレー校アジア系アメリカ人研究（Asian American Studies）に客員研究員として滞在して以来、断続

的にサンフランシスコ周辺においてチャイナタウン・華人社会に関するフィールドワークを行ってきた。また、2014年11月には補足調査を実施した。本研究では、収集した文献のほか、フィールドワークで得られた資料を用いて総合的に分析する。

Ⅱ ゴールドラッシュと大陸横断鉄道の建設—華人のアメリカ移住—

Ⅱ-1 ゴールドラッシュと華人の流入

1848年1月24日、サンフランシスコの北東約170kmに位置するシエラネバダ山中のコロマ（現在のエル・ドラド郡に属する）で金が発見された（図1）。スイス移民であるジョン・サッター¹⁾（John Sutter）の農場の製材用の水車小屋付近の川底から、ジェームズ・ウイルソン・マーシャル（James Wilson Marshall）が金を発見した²⁾。治安が悪かった当時の状況から、金発見の情報は、外部へは秘密にされた。しかし、その情報が外部に漏れると、瞬く間に世界中に広がった。そして翌1849年、まさに一獲千金の夢を抱いた人びとが、

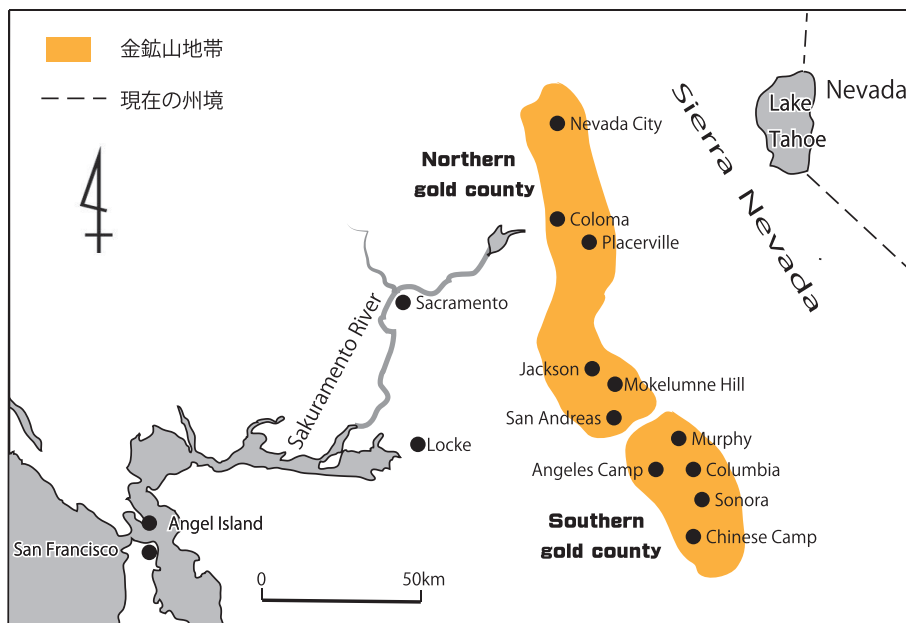


図1 カリフォルニアの金鉱山地帯

(Avakian 2002:31を加筆修正)

アメリカ国内はもとより、世界各地からカリフォルニアを目指し、ゴールドラッシュが始まった。

カリフォルニアで金発見のニュースは、1848年10月には太平洋のはるか彼方の香港（1842年の南京条約でイギリスに割譲）に伝わった。珠江デルタの四邑や三邑地方の人びとが、カリフォルニアの金鉱山を目指して、太平洋を横断した（潮，2010：3-5）。当時、カリフォルニアの「金鉱山」に至るルートは、次のとおりであった。カリフォルニアの上陸地点はサンフランシスコであり、その後、華人は小さな船に乗り換え、次の大きな町サクラメントを目指し、そこからは陸路で金鉱山に向かった。当時、華人はサンフランシスコのことを「金山」（広東語でgam shan）あるいは「大埠」（広東語でdai fow）と呼んだ。「大埠」は大きな都市を意味した。また、サンフランシスコに次ぐ主要都市であるサクラメントは「二埠」（広東語でyee fow）と呼ばれた。ちなみに「三埠」（広東語でsam fow）は、農村地帯の中心都市、ストックトン（現在、サンホキン郡に属する）である（Minnick, 1988）。

そして、1851年にオーストラリアのメルボルンで金が発見されると、メルボルンは「新金山」と呼ばれ、サンフランシスコは「旧金山」と称されるようになった。今日においてもサンフランシスコの中国語表記は、「三藩市」（「三藩」はサンフランシスコ）とともに「旧金山」が用いられている（写真1）。

1850年には、カリフォルニアに58,000人の金採掘者がいたが、そのうち華人は500人にも達しなかった。しかし、1851年になると、カリフォルニアの金鉱山を目指す華人が急増し、これは白人鉱夫による華人排斥の動きを加速させることになった。1852年、カリフォルニア州議会は、華人の金採掘を制限するために外国人鉱夫税を制定した（麦，1992:6-7）。カリフォルニア州は、月4ドルの外国人鉱夫税を徴収し、年に約100万ドルの収入を得ていた（堀井，1989:21）

後述する華人排斥法が1882年に交付されるまで、約370,000人の華人が「金山」を目指してア

航空会社	航班号	计划	目的地/经停站	登机口
	CZ775	15:30	东京成田	E15
	OZ336	15:30	首尔仁川	E33
	SK996	15:35	哥本哈根	E11
	CA991	15:50	温哥华	E14
	NH1286	15:55	东京羽田	E22
	UA5453	16:00	旧金山	E32

本屏航班计划时间：15:30 至 16:00

写真1 北京空港における出発便の案内掲示

上から東京成田、ソウル仁川、コペンハーゲン、バンクーバー、東京羽田、そしてサンフランシスコ（旧金山）。（2009年、筆者撮影）

メリカに渡った（Kwong and Miscevic, 2005:7）。しかし、金採掘現場は白人優位の社会であり、法律で華人は採掘権を得ることはできなかった。このため華人は、白人が放棄した廃鉱で金採掘を試みるが多かった（潮 2010:19-24）。また、白人鉱夫から雇われてコックや洗濯などに従事する華人もいた。華人が多い鉱区では、華人が経営する商店も設立された（写真2）。



写真2 コロマにあるマーシャル金発見州立歴史公園に復元されたゴールドラッシュ時代の華人経営の商店

防犯のために、外壁は石造りで窓はない。

（2014年、筆者撮影）

II-2 大陸横断鉄道の建設

アメリカの人口センサスによれば、1850年におけるアメリカ在住の華人は758人（男女別不明）であったが、1860年には34,933人（男33,149人、女1,784人）に、そして1870年には63,199人（男58,633人、女4,566人）に増加した（Lee, 1960:40）。1850年から1860年の増加の要因はゴールドラッシュであった。しかし、ゴールドラッシュは数年で下火となった。1860年から1870年の華人の増加の主な要因は、大陸横断鉄道の建設のための華人労働者の流入であった。

大陸横断鉄道はアメリカの中西部と太平洋岸を結ぶもので、東のオマハ（現ネブラスカ州）と西のサクラメントを結ぶセントラル・パシフィック鉄道は、“Big 4”と呼ばれるリーランド・スタンフォード、コリス・ハンチントン、チャールズ・クロッカー、そしてマーク・ホプキンズの4人の実業家が資金を出して建設した。1863年1月に着工されたが、当初は、アイルランド人やメキシコ人などが鉄道建設労働者として雇用された。しかし、工事の進行が計画より遅れ、難工事のため脱落者が続出した。これに代わる労働力として、華人が目目されるようになった。“Big 4”の一人、クロッカーは、華人を鉄道建設労働者として最初に募集した。華人労働者の投入により、鉄道建設工事は順調に進み、1869年5月、セントラル・パシフィック鉄道は完成した。冬季のシエラネバダ山脈の工事は困難を窮め、華人の犠牲者も多かったが、彼らは低賃金でも忍耐強く、勤勉に働いた。しかし、白人労働者は、華人労働者を「クロッカーのペット」(Crocker's pets)と批判した（劉, 1976:613-619）。

大陸横断鉄道が完成すると、華人は鉄道沿いの町に住みつき、また、完成した大陸横断鉄道でアメリカの中部や東部に移動していった。しかし、多くの華人はアメリカ西部で工業と農業に従事した。特に毛織物、タバコ、靴、縫製業において、華人は重要な労働力となった。なかでもサンフランシスコのタバコ生産の9割は華人の手によるものであった。また、サンフランシスコなどの都市

部では、洗濯業に従事する者も多かった。カリフォルニア農業の発展に、華人は大きく貢献した。沼地を埋立て、道路、用水路、貯水池を建設し、テンサイ、セロリなどの商業作物の栽培を成功させた（ライ, 2012:455）。

III サンフランシスコにおけるチャイナタウンの形成と華人社会

III-1 チャイナタウンの形成

1849年2月、サンフランシスコの華人は54人であったが、1850年1月には787人に、そして1852年には約3,000人に達した。当時、チャイナタウンは「小広州」(Little Cantong)あるいは「小中国」(Little China)と呼ばれ、華人男性は、白人から“China boy”と呼ばれた（劉, 1976:99-101）。

ゴールドラッシュや大陸横断鉄道建設でアメリカにやって来た華人の最初の上陸地点となったのは、サンフランシスコであった。前述したようにゴールドラッシュ時代、金鉱山地域にも、華人のために食料や雑貨などを販売する華人商店が開設された。それらの華人商店に商品を供給したのはサンフランシスコのほか、サクラメントやストックトンなどに形成されたチャイナタウンの華人店舗であった（楊ほか, 1989:292-297）。

サンフランシスコのチャイナタウンの形成は、1849年に始まった。初期、華人商店が集中したのはサクラメント通りで、デユボン街（1908年、グラント街に改名）やポーツマス広場へ拡大していった。1853年のチャイナタウンの範囲は、南はサクラメント通り、北はジャクソン通り、東はカーニー街、西はストックトン通りであった（劉, 1984:110）。図2は、1850年頃から1885年頃までのチャイナタウンの主要部を示したものである。

1850年代半ば、サンフランシスコのチャイナタウンには、雑貨店が33軒、薬局15軒、料理店・肉屋・理髪店が各5軒、裁縫店・旅館・木工場が各3軒、パン屋が2軒、そして漢方医が5軒あった（Chinn et al. eds., 1969:10-11）。

初期のサンフランシスコ・チャイナタウンは、

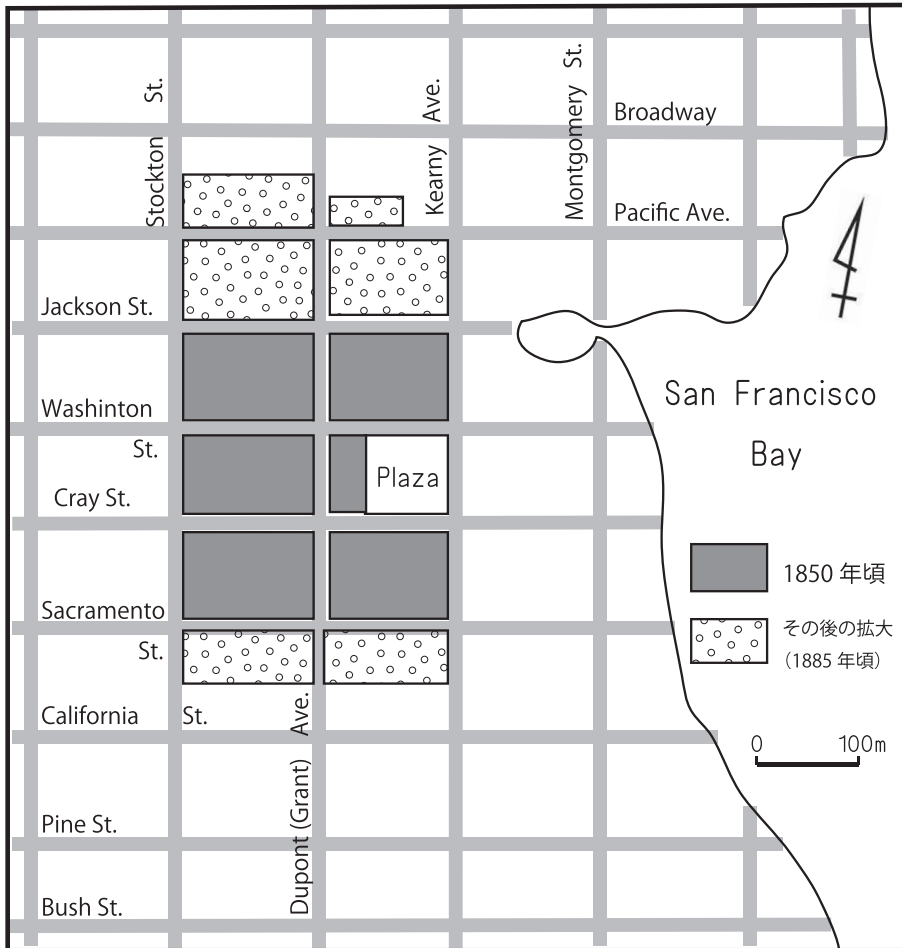


図2 1850年頃～1885年頃におけるサンフランシスコのチャイナタウンの主要部

(The plan for San Francisco in 1853, Official Map of Chinatown in San Francisco, 劉 (1984:110) などにより筆者作成)

広東語で“Tong Yun Fow” (唐人街) と呼ばれた。ここでは、華人が必需なものが提供された。仕事、食事、物品、相互扶助組織、宗教施設、医療、娯楽、華字紙 (中国語新聞) などである。しかし、人口が密集し、アヘンや買春などが蔓延する場でもあった (Yung et al., 2006:7)。

1860年代のチャイナタウンは、圧倒的な男性社会であり、20～39歳の若年層が75%を占めた。チャイナタウンの内部には、買春窟、アヘン窟、ギャンブル場などが多数あった。また、華人は道教や仏教の寺院を建設し、旧正月を祝うなど中国の伝統を維持していた。サンフランシスコの中心部に

チャイナタウンが形成されたため、サンフランシスコ市当局は、幾度となく華人にこの地区からの立ち退きを要求した (貴堂, 2012:83)。

1892年、華人商店は674軒に増加した。しかし、華人排斥法の施行により、1890年から1900年に、華人人口も華人商店も減少した。そして、1906年のサンフランシスコ大地震では、発生した火災により、チャイナタウンは焼け野原となった (劉, 1976:134)。しかし、チャイナタウンの復興は速く、1908年には、華人商店は193軒に回復した (劉, 1984:110)。サンフランシスコ市は、震災を機会に、ダウンタウンの重要な場所に形成されたチャイナ

タウンを、他の地域に移す計画を立てた³⁾。しかし、華人は、その移転計画に反対し、もとの場所にチャイナタウン再建した。

Ⅲ-2 華人社会

次に、サンフランシスコのチャイナタウンの華人社会の特色についてみてみよう。

前述したように、サンフランシスコにやって来た華人の大多数は、珠江デルタの農村から来た広東人で、大半は珠江デルタ西部の四邑出身者であった。四邑地方は、台山、開平、恩平、新会の四地域から成るが、特に台山出身者が多数を占めた(ライ, 2012:455)。チェーン・マイグレーションにより、四邑地域からアメリカに来る華人が続ぎ、1880年代末まで、サンフランシスコの華人人口の8割以上は四邑地方出身の広東人が維持していた(園田, 2009:134-144)。第二次世界大戦前のアメリカ華人社会は、広東人がその中心を成し、チャイナタウンは広東語の世界であった(山下, 2000:42-43)。

サンフランシスコのチャイナタウンでは、出身地に応じて相互扶助組織である同郷会館が結成された。1850年、三邑会館(南海、番禺、順徳の3地方出身者による)および四邑会館(新会・台山・開平・恩平の4地方出身者による)が設立された。1852年には、陽和会館(中山地方出身者による)と協吉会館(客家人による、後に人和会館に改称)が組織された。1854年には、台山出身者が四邑会館から離脱し、独自に寧陽会館を設立した。1862年には台山および開平出身者の一部が四邑会館を離脱し合和会館を組織し、また四邑会館に残った新会出身者は、鶴山出身者と共同で四邑会館の跡地に岡州会館(岡州は現在の江門市新会区一帯)を結成した(劉, 1976:150-166)。1862年、これら三邑会館、陽和会館、人和会館、寧陽会館、合和会館、岡州会館の6つの会館は、連合組織として中華会館を結成した。カリフォルニア州への団体登録の際、中華会館は中国六大公司(The Six Companies)に改称された。対外的には中国六大公司の名称が用いられたが、対内的には中華会館

と呼ばれた(写真3)。その後、1878年には肇慶会館(広東旧肇慶府出身者の会館)が加入し、七大会館となった(楊ほか, 1989:127-145; 李・楊主編, 1999:177-185)。

中国では秘密結社がみられるが、アメリカの華人社会でも、「堂」(tong)、「会」(hui)あるいは「堂会」と呼ばれる秘密結社が活動し、敵対する堂との利権抗争(「堂闘」と呼ばれる)がしばしば発生した(ライ, 2012:456-458)。

サンフランシスコのチャイナタウンには多数の堂が組織され、アヘン窟、売春窟、賭博場などは堂会の支配下にあった(劉, 1976:224-235)。サンフランシスコで最初の有力な堂会は致公堂(Chee Kung Tong)であり、致公堂は中国語名には「洪門」と冠し、英語名は“Chinese Free Mason”と称した。堂会の成員の中には、下層の低賃金労働者が多く、家父長的な相互扶助を求めて入会した(内田, 1976:122-144)。

Ⅲ-3 華人排斥運動

ゴールドラッシュが収束し、鉱山町がゴーストタウンと化すと、華人のサンフランシスコへの集住傾向が強まった。これにより、白人による華人



写真3 ストックトン通りの中華会館

(2014年、筆者撮影)

に対する著しい偏見、差別と激しい排他的感情が高まり、華人排斥運動につながっていった。このような華人を取り巻く厳しい環境の中で、チャイナタウンは、白人からの排斥を免れる一種の避難所の役割を果たした。

華人排斥の最初の大きな暴動が1867年2月に発生した。数百人の白人労働者が建設工事現場で働く華人労働者を襲撃した。そのほか、華人が雇用されていた衣料・繊維関係の工場を白人の暴徒が破壊し、多数の負傷者が出た。白人側からみると、資本家の道具となって低賃金で働く華人を排斥しようとするものであった。暴徒の中には、アイルランド系労働者が多かった。これらの暴動以後、サンフランシスコ市当局は、華人に対して差別的な条例を制定した。例えば、天秤棒を担いでの道路通行を禁止する条例や男性囚人に断髪を義務付ける「弁髪条例」などである（貴堂、2012:94-99）。

1877年7月には、勤労者党（Working men's Party）の主催により、約8,000人の華人排斥の集会が開かれ、集会の解散後、参加者の一部が暴徒化し、チャイナタウンの店舗（特に洗濯屋）、キリスト教伝道団体の施設、太平洋郵船（米中貿易の海運会社）などを襲撃した（貴堂、2012:94-99）。

華人に対する排斥の機運が高まるに連れ、小さな町や村に居住していた華人も、サンフランシスコのチャイナタウンに身を寄せざるを得なかった。農村地域に形成された小規模なチャイナタウンも消滅していった。例えば、サクラメント南部のウォールナットグローブの農村地帯に形成されたチャイナタウンであるロック（Locke、中国名：樂居または洛克村）は、1912年に中山（マカオに隣接）出身者が住み始めたが（陳、1984:299-301）、カリフォルニア最後の農村地帯のチャイナタウンと呼ばれ、歴史保存地区として観光スポットになっている（写真4）。

また、一部の華人は、反華人的感情が充満したカリフォルニアを離れて、しだいにシカゴ、ニューヨークなど中西部や東部の都市へと移動して行くようになった⁴⁾。



写真4 「カリフォルニア最後の農村地帯のチャイナタウン」と呼ばれるロック

東南アジアのチャイナタウンでみられるショップハウスと類似している。1階には騎楼（台湾では亭仔脚と呼ばれる）が設けられている。

（1994年、筆者撮影）

カリフォルニアでは、白人の労働組合が華人排斥運動の先頭に立ち、その運動はアメリカ西部全域に拡大した。その結果、1882年、連邦議会において華人排斥法が可決され成立した。この法律により、以後10年間、熟練・非熟練を問わず、華人のアメリカへの入国が禁止され、市民権も認められなくなった。この法律は、1904年まで幾度かの改正を経て、入国禁止期間も事実上無期限となった（鈴木、1988）。

華人排斥法の制定後、密入国を試みたり、例外的な滞在資格や市民権の保有を主張して入国した華人は、移民検査所での審査の後、強制送還されたり、審査の結果が出るまで施設に拘留された。移民検査所の施設が老朽化したため、新しい移民検査所が1910年、サンフランシスコ湾のエンジェル島（中国名、天使島）に建設され、華人を含むアジアからの入国者の審査が行われた（劉、1981:99-111）。ヨーロッパからの移民を審査する移民検査所が置かれたニューヨーク・マンハッタン島の沖合のエリス島に対して、エンジェル島は「西のエリス島」とも呼ばれた（陳、1984:248-255）。

エンジェル島の移民検査所の拘留施設では、1910年から1940年までの期間、175,000人の華人がここで検査を受けた。Lai et al. (1980)は、エンジェル島の移民局に拘留された華人が、施設内で書き

綴った漢詩を収録したものである。拘留施設では、屈辱的な身体検査が行われ、提供される食事も十分なものではなく、待遇の悪さのために、1919年には暴動が発生した（張ほか主編、1990:344）。

Ⅲ-4 華人の経済活動

次に、華人排斥の状況下における華人の経済活動をみてみよう。

1870年当時、サンフランシスコの華人労働者の主要な就業分野は、製靴業、タバコ製造業、毛織物業などであり、華人は低賃金で働いていた。これらの分野で、最も激しく華人と対立したのは、アイルランド人労働者であった。華人排斥運動の主要なリーダーで、カリフォルニア労働党を組織したカーニー（Dennis Kearney）はアイルランド出生の移民であった。1882年の華人排斥法の制定後、これらの業界から華人は閉め出された（内田 1976:174-187）。

白人からの華人排斥の動きが高まるにつれ、経済活動の面においても、華人は多くの分野から排除されるようになった。結果的に白人と競合しない分野にしか進出することができず、小規模なサービス業分野に限定された。とりわけ、洗濯屋、中国料理店、雑貨店が中心であった。華人に対する偏見が強い中で、これらの3つの分野は、華人の生活に密接するものであり、また、英語力が乏しく、専門的教育を受けていない華人にとって、辛抱強く働くことによって、ある程度報われる仕事であった（麦、1992:80-92）。

1851年、アメリカ最初の華人経営の洗濯屋が、サンフランシスコのチャイナタウンのワシントン通りにできた。その後、洗濯屋を開業する華人が増加していった。1870年、サンフランシスコには2,000人あまりが洗濯業に従事しており、その大部分が華人であった。1876年には、サンフランシスコにある洗濯屋は300軒であり、市内のどの通りにも華人経営の洗濯屋があったことになる。1884年、華人排斥運動が最高潮に達した際には、華人経営の洗濯屋は、恰好の攻撃対象となった（劉、1976:310-312）。

中国料理店は、チャイナタウンが形成された初期には多くはなかった。中国料理店は「雑碎餐館」と呼ばれた。「雑碎」（chop suey）⁵⁾は、広東語であり、野菜や肉を油で炒めたアメリカ式中国料理を指すもので、しだいにアメリカ全土に中国料理店が広がっていった（劉、1976:312）。

華人は農業部門でも重要な役割を果たした。19世紀末から20世紀に入る頃、サンフランシスコ湾岸地域においては日本人移民による花卉栽培が盛んになってきた。その時期、華人もイタリア人とともに、いち早く花卉栽培において重要な地位を占めていた。現在のチャイナタウンの南側に位置するマーケット通りとカーニー街の角は、イタリア人・華人・日本人の花卉生産者が集まり、花卉の露天市場の様相を呈していた（矢ヶ崎、1993:112-117）。

Ⅳ 第二次世界大戦後のサンフランシスコにおけるチャイナタウンの変容

Ⅳ-1 戦後アメリカにおける華人社会の変容

華人排斥運動の影響で華人人口は減少したが、第二次世界大戦中、戦時下で労働力が不足したため、華人の雇用が増加した。また、中国に侵攻した日本と戦う中国に対して、アメリカにおける華人のイメージも少しずつ好転していった。第二次世界大戦中の1943年、連邦議会は華人排斥法を廃止した。これにより、華人に割り当てられた移民枠は年間105名となり、華人の帰化権も回復した。また、第二次世界大戦修了後、華人の退役軍人には、妻を中国からアメリカに呼び寄せることが認められ、1945～1950年の間に8,000人近い華人女性がアメリカに入国した（ライ、2012:461-462）。

1949年、中華人民共和国成立が成立したが、アメリカはこれを承認せず、台湾・国民党と外交関係を継続した。朝鮮戦争（1950～1953年）、ベトナム戦争（1965～1975年）で中国と敵対し、反共産主義ムードが高まり、アメリカ国内の華人や華人団体の監視を強化し、台湾・国民党の影響力を重視した。1950年代から1960年代前半に、アメリ

カは約3万人の中国難民を受け入れたが、その多くは、専門家、知識人、国民党の元官吏などであった。また、1950年代後半以降、台湾・香港から多くの留学生がアメリカに渡り、その大半が卒業後、アメリカに留まった（ライ、2012:461-464）。

戦後、アメリカは好景気で、華人はアメリカ社会で就職や起業の機会を得ることができた。専門的・技術的職業に就く華人も少なくなかった。華人経営の洗濯屋は、自動洗濯機が家庭に普及し、パーマネント加工の衣類が普及するにつれ、減少していった。その代り、中国料理店が増加した。第二次世界大戦後、白人と結婚する華人が増加し、より良い仕事に就く者も増え、チャイナタウンから市内の他の地域や郊外への華人の移動が進んだ（Yung et. al., 2006:7）。

1965年の移民法改正（1968年7月発効）により、アジアからの移民を多く受け入れるようになり、台湾・香港、さらには東南アジアの華人がアメリカへ多く流入した。

戒厳令下の台湾からは、台湾独立運動の支持者や多くの優秀な人材がアメリカに渡り、ITをはじめとする先端産業で大きな貢献をした。また、難民は移民受け入れ制限の人数の枠外であったため、1975年のベトナム戦争終結前後から、ベトナム・ラオス・カンボジアのインドシナ難民が急増した。これら難民の中には、華人が多く含まれていた（ライ、2012:465）。1978年末に決定された改革開放政策以降、中国大陸からの移民や留学生が急増した。留学生の中には、勉強終了後もアメリカに定着する者が増えた。表1はサンフランシスコの華人社会の変容を、年表にまとめたものである。

Ⅳ-2 チャイナタウンの拡大

サンフランシスコにおいても、第二次世界大戦後、華人人口は増加した。人口センサスによれば、1940年に17,782人（同市の総人口の2.8%）であったが、1950年に24,813人、1960年に36,445となった。1965年移民法改正により中国や東南アジアからの移民が増加し、華人人口は1970年には58,696人、1980年には82,244人（同市の総人口の12.1%）

になった。図3は、サンフランシスコにおける華人人口の推移を示したものである。

華人人口の増加に伴い、ダウンタウンのチャイナタウンの人口密度が高まり、チャイナタウンは周辺に拡大していった。特に、リトルイタリーと呼ばれるイタリア人街であった北側のノースビーチ（North Beach）では、そこに居住するイタリア人が減少する一方で、華人の店舗や居住者が増えチャイナタウン化が進んだ（Godfrey, 1988:97, 102-105）。

Ⅳ-3 伝統文化の保持

アメリカ最初のチャイナタウンであるサンフランシスコのチャイナタウンでは、端午節、清明節、春節や龍舞、獅子舞などの華人の伝統文化が保持されてきた。住民の多くは広東出身者であったが、社会主義の中華人民共和国の成立後、アメリカの反共産主義の政策下で、国民党支配の台湾文化の影響も受けてきた（陳、1984:258-265）。

サンフランシスコのチャイナタウンにおいて、もっとも重要な年間行事は、旧暦の正月を祝う春節である。サンフランシスコの春節祭は1953年に始まった（ライ、2012:461-464）。サンフランシスコにおける華人人口の比率の高まりにより、サンフランシスコの公立学校は、1994年から春節には休校となった。全米ミス・チャイナタウン選考会、バザール、マラソン・競歩大会などの一連の春節行事の最後を飾るのは、「新年大巡遊」という名の盛大なパレードである。獅子舞、龍舞、企業・学校・団体などによる花車、ブラスバンド、仮装行列、そして市長をはじめサンフランシスコ市の著名人、在郷軍人、警察、消防のパレードなど、参加者も華人に限らず、民族集団の枠を越えた、全市をあげての大イベントとなっている。その模様は、地元テレビ局により実況中継される（山下、2000:127-129）。チャイナタウンでは、華人住民の高齢化が進んでいる。チャイナタウンの中心にあるポーツマス広場は、中国語新聞を読み、中国将棋に興じる華人高齢者のたまり場になっており、中国標準語である普通話よりも、広東語や

表1 サンフランシスコ華人関係年表

年	サンフランシスコおよび周辺	年	関連事項
1848	コロマで金発見, 1849年からゴールドラッシュ		
1848	アメリカ・メキシコ戦争の結果, メキシコ領カリフォルニアがアメリカ領に編入		
1850	カリフォルニアが州に昇格	1851	太平天国運動 (~1864年) の乱発生
1852	カリフォルニア州議会, 華人の金採掘を制限するために外国人鉱夫税を制定		
		1861	南北戦争 (~1865年)
1863	大陸横断鉄道の建設に華人労働者を募集	1863	奴隷解放宣言
1869	大陸横断鉄道の完成		
1882	華人排斥法, 連邦議会で成立		
1906	サンフランシスコ大地震		
1910	サンフランシスコ湾のエンジェル島に移民検査所建設	1911	辛亥革命
		1912	中華民国成立
		1914	第一次世界大戦 (~1918年)
1924	排日移民法の施行		
		1939	第二次世界大戦 (~1945年)
1943	華人排斥法廃止		
		1949	中華人民共和国成立
		1950	朝鮮戦争, 中国義勇軍参戦 (1953年, 休戦)
1950年代~60年代前半, 約3万人の中国人難民をアメリカに受入れ			
1963	美国 (アメリカ) 華人歴史協会, サンフランシスコに設立	1965	移民法改正 (1968年発効) ベトナム戦争激化 (~1975年)
		1966	文化大革命の始まり (~1976年)
1970	サンフランシスコ・チャイナタウンに牌楼建設		
		1972	ニクソン大統領訪中
		1978	改革開放政策の開始
		1979	米中国交正常化, 台湾と断交
1989年, 天安門事件。これを契機に, アメリカ政府は1993年までに中国人留学生5万人以上の永住資格申請を受理			
2011	サンフランシスコ市長に初の華人系, エドウィン・リー (Edwin Lee) 就任		
		2013	習近平, 国家主席に就任
2015	サンフランシスコ・チャイナタウンに海外初の抗日戦争記念館設立		

(胡ほか編, 村田・貴堂訳 (1997), ライ (2010), SanFranciscoChinatown.com
ほかにより筆者作成)

その他の方言が多く話されている (写真5)。

チャイナタウンの外に住む華人にとって, チャイナタウンは週末に家族で食事に出かける場所という意味が強い。華人に評判の飲茶^{ヤムチャ}レストランは, 午前中から満員となる (写真6)。かつて, この

ような場では, 広東語が主流をなしていたが, 今では普通話で注文する客が増え, 従業員も広東語とはまるで外国語のように大きく異なる普通話を理解できなければ務まらなくなっている (山下, 2000:127)。

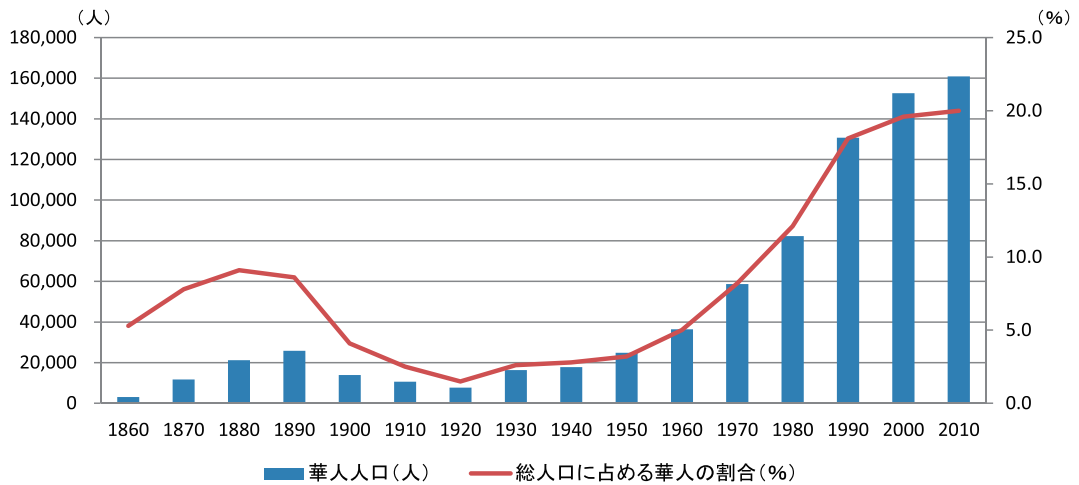


図3 サンフランシスコにおける華人人口の推移（1860～2010年）

US.Censusによる。ただし、2000年および2010年は、センサスの調査で“Chinese (one race)”と回答した者。1860～1990年までは、San Francisco History-Populationにより筆者作成。



写真5 ポーツマス広場に集う華人高齢者
(2014年、筆者撮影)



写真6 休日のチャイナタウンの飲茶レストラン
華人の生活では、家族団欒の時を過ごすことが重視される。
(2014年、筆者撮影)

Ⅳ-4 観光地としてのチャイナタウン

サンフランシスコは世界的な観光都市であり、チャイナタウンは、ケーブルカー、フィッシャーマンズ・ワーフ、ゴールデン・ゲートブリッジなどとともに、サンフランシスコの重要な観光名所になっている。サンフランシスコを訪れる国内外からの観光客のほとんどは、ケーブルカーに乗り、チャイナタウンで中国料理を味わう（写真7）。

チャイナタウンを南北に走るグラント街(Grant

Avenue、都板街)は、チャイナタウンのメインストリートであり、その両側には観光客相手の中国料理店やみやげ物店が、800mほどにわたって軒を連ねている。グラント街の西隣りのストックトン通り(Stockton Street、市徳頓街)には、観光客向けというよりも華人向けに野菜、鮮魚、肉、書籍、衣類などを売る商店や華人の諸団体、華人学校などが多く、華人の庶民生活のにおいがする(写真8)。チャイナタウンの北側は、サンフラン



写真7 チャイナタウンを通過するケーブルカー
チャイナタウンのメインストリートであるグラント街とケーブルカーが通るカリフォルニア通りの交差点にて。
(2014年、筆者撮影)

シスコのイタリア人街、リトルイタリーであるノースビーチである。最近、この地区にも華人の商店や住宅が進出している（山下、2000:125-129）。

図4は、2014年現在のチャイナタウンの概況を示したものである。多くの観光客は、高級ホテルやデパートが周辺に集まり、観光名所になっているユニオンスクエアから、チャイナタウンの観光シンボルである牌楼を通り（写真9）、チャイナタウンのメインストリートであるグラント街を巡る。



IV-5 郊外におけるニューチャイナタウンの形成

サンフランシスコのダウンタウンに位置するチャイナタウン（以下、オールドチャイナタウン）は、増加する新来の華人を受け入れるための空間的な余地はない。オールドチャイナタウンの西に隣接するノブヒルやロシアンヒルは高所得者の住宅地であり、地価が高い地区である。このため、チャイナタウンの拡大には限界があり、人口密度は高く、常に駐車難となっている。また、建物の老朽化も進んでいる。

このようなオールドチャイナタウンのフィジカルなマイナス面に加えて、チャイナタウン内の店舗経営者の世代交代も進んでいる。オールドカマーである広東人の経営者に代わって、ニューカマーの中国大陆や東南アジア出身の華人がそれらを継承する現象が多くみられる。特にベトナムを中心とするインドシナ出身者が経営する中国料理店が増加している。また、オールドチャイナタウンから郊外への華人の居住地移動も顕著である（山下、2008；山下、2010：29-34；山下、2016）。

オールドチャイナタウンからさらに西のゴールデンゲート・パーク近くに位置するリッチモンド区およびサンセット区に、オールドチャイナタウン居住者やニューカマーの華人がより良好な居住



写真8 グラント街（左）とストックトン通り（右）

左の写真に見える街路標識“Sacramento”の中国語の街路名は「唐人街」（中国語でチャイナタウンを意味する）となっている。サクラメント通りがサンフランシスコのチャイナタウンの発祥の地であることを示している。
(2014年、筆者撮影)



図4 サンフランシスコ・チャイナタウンの概況

(2014年11月の現地調査により筆者作成)



写真9 チャイナタウンの牌楼 (Chinatown gate)

この牌楼は、アメリカのチャイナタウンの牌楼の中で最も早く1970年に建設された。

(2014年, 筆者撮影)

条件を求めて居住するようになり、ニューチャイナタウンが形成された(図5)。

このような郊外型のニューチャイナタウンの形成は、アメリカの他の大都市周辺でも同様なパターンがみられる(Fong, 1994)。リッチモンド区お

よびサンセット区に形成されたチャイナタウンは、ニューチャイナタウンの類型に属するものである。

ールドチャイナタウンから西へ6kmほど進むと、サンフランシスコ市リッチモンド区のクレメント通りになる。この1kmあまりの道路の両側には、漢字の看板を掲げた華人経営のレストラン、ファーストフード店、スーパーマーケット、銀行、書店などが連なる(写真10)。華人はここを「新華埠」(華埠はチャイナタウンを意味する)すなわちニューチャイナタウンと呼ぶ(写真11)。レストランの中には、中国料理店に混じって、東南アジア出身の華人が経営するベトナム料理店、タイ料理店、ミャンマー料理店などもみられる(山下, 2000:138-139)。

ニューチャイナタウンは観光地ではないが、サンフランシスコ周辺各地から訪れる華人でにぎわっている。この周辺は、社会経済的に上昇した華人や、台湾、香港から来たニューカマーに人気のある新興住宅地となっている。ールドチャイナタウンの住民の多くが広東人であり、そこは古

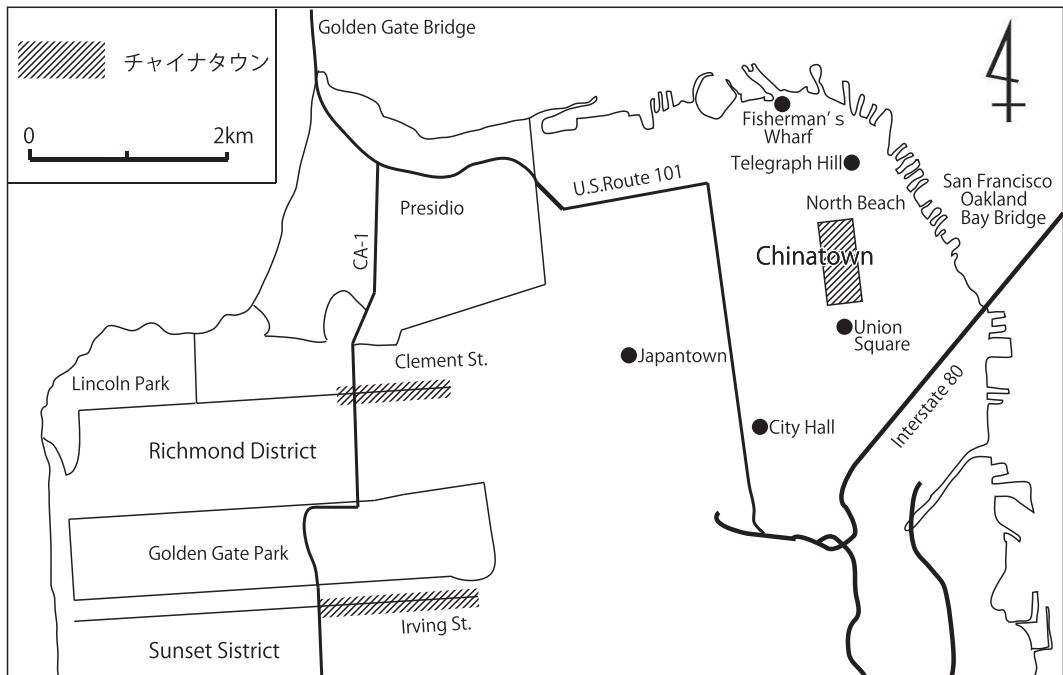


図5 サンフランシスコの新旧のチャイナタウン

(2014年11月の現地調査により筆者作成)



写真10 リッチモンド区クレメント通りのニューチャイナタウン

オールドチャイナタウンと異なり、木造2階建ての新しい華人商店やレストランが立ち並ぶ。
(1994年、筆者撮影)



写真11 リッチモンド区クレメント通りの華人経営のスーパーマーケット

(2002年、筆者撮影)

くから広東語の世界であったのに対し、ニューチャイナタウンでは、普通話が共通語の役割を果たしている。

リッチモンド区のクレメント通りとリンカーン公園を挟んで南に位置するサンセット区のアービング通りにも、ニューチャイナタウンが形成されている(写真12)。筆者は、1994年からこれらのニューチャイナタウンに注目してきた(山下, 2000:138-139)。図6は、クレメント通りのニューチャイナタウンにおいて、店舗名が中国語で表記されていたものを示したものである(1998年に調査)。

2014年の調査では、リッチモンド区のクレメント通りとサンセット区のアービング通りにおいて、ともにインドシナ特にベトナム出身の華人が経営する中国料理店、ベトナムの代表的な麺、



写真12 サンセット区、アービング通り

(2014年、筆者撮影)

フォー(pho)の専門店、ベトナム式サンドイッチ販売店(写真13)、カフェ、スーパーマーケットの増加が目立つようになった。

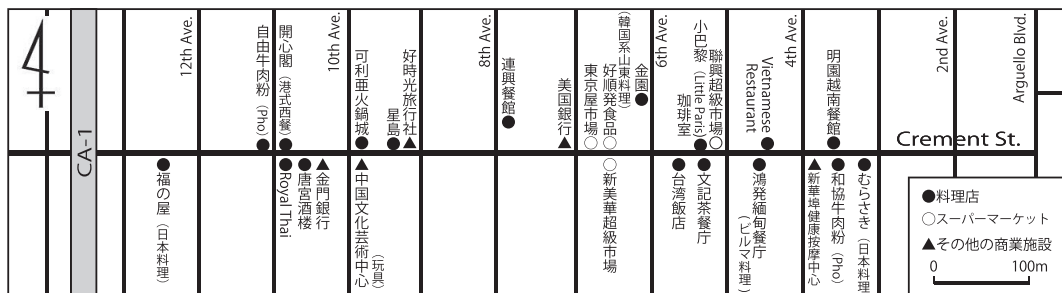


図6 リッチモンド区のニューチャイナタウンの華人関係店舗

(1998年8月の現地調査により筆者作成)



写真13 クレメント通りのベトナム式サンドイッチの販売店

ハム、焼き豚、ローストチキン、ミートボールなどをレタス、トマト、香菜などとともに挟んだサンドイッチが4ドル前後で販売されている。

(2014年、筆者撮影)

V むすび

サンフランシスコは、アメリカで最初の華人社会およびチャイナタウンが形成された地域である。本研究では、サンフランシスコを対象に、ゴールドラッシュに伴いサンフランシスコのチャイナタウンがいかにして形成され、その後どのように変容していったのかについて、文献および筆者のフィールドワークによって明らかにすることを目的とした。

1948年の金発見、そしてゴールドラッシュにより、華人の上陸港であったサンフランシスコ（当時「金山」と呼ばれた）にチャイナタウンが形成

された。ゴールドラッシュが数年で下火になると、その後、華人の多くは大陸横断鉄道の建設に従事した。華人の出身地は珠江デルタの四邑地方、特に台山地域出身者が多く、サンフランシスコに限らず第二次世界大戦前のアメリカの華人社会は、広東人が中心であった。白人労働者による華人排斥運動が高まり、1882年、華人排斥法が制定され、華人の職業は、洗濯屋、中国料理店、雑貨店などの小規模なサービス業に限定された。

第二次世界大戦中の1943年、華人排斥法が廃止された。1949年の中華人民共和国後は、台湾・国民党との関係が密接になり、台湾や香港からの留学生が増加し、その大半がアメリカに留まった。華人人口の増加に伴い、サンフランシスコのチャイナタウンは拡大し、チャイナタウンの観光地化も進んだ。

豊かな華人は、広東人中心のダウンタウンのチャイナタウン、すなわちオールドチャイナタウンよりも、郊外のより居住条件がよい、サンフランシスコの西郊のリッチモンド区のクレメント通りおよびサンセット区のアービング通りを中心にニューチャイナタウンを形成した。このようなニューチャイナタウンにおいても、しだいにインドシナ系華人やその他の東南アジア出身者が多く進出するようになった。このように、サンフランシスコのチャイナタウンに限らず、アメリカ各地のチャイナタウンは、ニューカマーの流入に伴いエスニック的な複合化が進行している。

[注]

- 1) サッターの名は、サンフランシスコの通り名、サッター街 (Sutter Street) に残されている。
- 2) コロマでの金発見については、Dillinger (2006) が詳しく紹介している。また、呉 (2003) は、カリフォルニアにおけるゴールドラッシュ地帯の歴史と現状について概説している。
- 3) “Plan for new Chinatown” San Francisco Chronicle, April 25, 1906
“Chinese colony at foot of Van Ness the plan to remove celestials to San Mateo County is opposed” San Francisco Chronicle, April 27, 1906
- 4) 大井 (2006) によれば、シカゴに最初の華人が移り住んだのは1876年であった。
- 5) アメリカにおけるチャプスイ (雑碎) の歴史に関しては、芹澤 (2010) が紹介している。

[文 献]

- 内田直作 (1976) : 『東洋経済史研究Ⅱ』 千倉書房.
- 大井由紀 (2006) : 「中国人意識」とディアスポラー19世紀末のシカゴを事例として－. 華僑華人研究 3 : 18-28.
- 貴堂嘉之 (2012) : 『アメリカ合衆国と中国人移民－歴史のなかの「移民国家」アメリカー』 名古屋大学出版会.
- 杉浦 直 (2007) : シアトルにおける初期チャイナタウンの形成とその変容. 歴史地理学 49(4) , 1-17.
- 鈴木 晟 (1988) : 1850～1920年代におけるアメリカの東洋移民排斥. アジア研究 34(3) : 92-141.
- 芹澤知広 (2010) : 新刊紹介Andrew Coe著 Chop Suey: A cultural history of Chinese food in the United State. 華僑・華人研究 7 : 169-172.
- 園田節子 (2009) : 『南北アメリカ華民と近代中国－19世紀トランスナショナル・マイグレーション』 東京大学出版会.
- 堀井 武 (1989) : 一九世紀アメリカにおける中国人労働者. 高円史学 5 : 17-32.
- 矢ヶ崎典隆 (1993) : 『移民農業－カリフォルニアの日本人移民社会－』 古今書院.
- 矢ヶ崎典隆 (2016) : ロサンゼルス大都市圏の分断化とエスニックタウン. 山下清海編 : 『世界と日本の移民エスニック集団とホスト社会－日本社会の多文化化に向けたエスニック・コンフリクト研究』 明石書店, 149-174.
- 山下清海 (2000) : 『チャイナタウンー世界に広がる華人ネットワークー』 丸善.
- 山下清海 (2008) : チャイナタウンの形成と変容. 山下清海編 : 『エスニック・ワールドー世界と日本のエスニック社会』 明石書店, 68-69.
- 山下清海 (2010) : 『池袋チャイナタウンー都内最大の中華街の実像に迫るー』 洋泉社.
- 山下清海 (2016) : 『新・中華街ー世界各地で〈華人社会〉は変貌する』 講談社.
- ライ, マーク・ヒム (2012) : 米国. パン, リン編, 游 仲勳監訳 : 『世界華人エンサイクロペディア』 明石書店, 454-477.
- 潮龍起 (2010) : 『美国華人史 (1848-1949)』 山東画報出版社.
- 陳依範著, 殷志鵬・廖慈節合訳 (1984) : 『美国華人發展史』 三聯書店, 香港. 原著Chen, Jack (1980) : The Chinese America. Harper & Row, San Francisco.
- 胡垣坤・曾露凌・譚雅倫編, 村田雄二郎・貴堂嘉之訳 (1997) : 『カミング・マンー19世紀アメリカの政治風刺漫画のなかの中国人ー』 平凡社. 胡垣坤・曾露凌・譚雅倫編 (1994) : 『美国早期漫画中の華人』 三聯書店, 香港.
- 李春輝・楊生茂主編 (1999) : 『美洲華僑華人史』 東方出版社, 北京.
- 劉伯驥 (1976) : 『美国華僑史』 黎明文化事業股份有限公司, 台北.
- 劉伯驥 (1981) : 『美国華僑史 (続編)』 黎明文化事業股份有限公司, 台北.
- 劉伯驥 (1984) : 『美国華僑逸史』 黎明文化事業股份有限公司, 台北.
- 麦禮謙 (1992) : 『從華僑到華人ー二十世紀美国華人社会發展史』 三聯書店, 香港.
- 吳琦幸 (2003) : 『淘金路上』 上海古籍出版社, 上海.
- 楊国標・劉漢標・楊安堯 (1989) : 『美国華僑史』 廣東高等教育出版社, 広州.
- 張興漢・陳新東・黄卓才・徐位發主編 (1990) : 『華僑華人大觀』 暨南大学出版社, 広州.
- Avakian, Monique (2002) : *Atlas of Asian-American history*. Facts on File, New York.
- Chinn, Thomas W. (1989) : *Bridging the Pacific: San Francisco Chinatown and its people*. Chinese Historical Society of America, San Francisco.
- Chinn, Thomas W., Lai, H. Mark and Choy, Philip P. eds. (1969) : *A history of the Chinese in California: A syllabus*. Chinese Historical Society of America, San Francisco.
- Dillinger, William C. (2006) : *The gold discovery: James Marshall and the California Gold Rush*. California Department of Parks and Recreation and the Gold Discovery Park Association.

- Fong, T. P. (1994) : *The first suburban Chinatown: The remaking of Monterey Park*, California. Philadelphia: Temple University Press
- Godfrey, Brian J. (1988) : *Neighborhoods in transition: The making of San Francisco's ethnic and nonconformist communities*. University of California Press, Berkeley.
- Kwong, Peter and Miscevic, Dusanka (2005) : *Chinese America: The untold story of American's oldest new community*. The New Press, New York.
- Lai, Him Mark, Genny Lim, and Judy Yung (1980) : *Island: Poetry and history of Chinese: Immigrants on Angele Island, 1910-1940*. University of Washington Press, Seattle.
- Lee, Rose Hum (1960) : *The Chinese in the United States of America*. Hong Kong University Press, Hong Kong.
- Minnick, Sylvia Sun (1988) : *Samfow: The San Joaquin Chinese legacy. Panorama*. West Publishing, Fresno.
- Murphey, Roads (1952) : Boston's Chinatown. *Economic Geography*, **28**(3) , 244-255.
- Official Map of Chinatown in San Francisco*. - David Rumsey Historical Map Collection Author: Farwell, Willard B. Date: 1885
<http://www.davidrumsey.com/luna/servlet/detail/RUMSEY~8~1~215016~5501920:Official-Map-of-Chinatown-in-San-Fr> (最終閲覧日 : 2017年 2月14日)
- The plan for San Francisco in 1853.
<http://foundsf.org/images/thumb/2/24/Zakreskis-1853-map.jpg/720px-Zakreskis-1853-map.jpg>
(最終閲覧日 : 2017年 2月14日)
- San Francisco History-Population
<http://www.sfgenealogy.com/sf/history/hgpop.htm> (最終閲覧日 : 2017年 2月14日)
- SanFranciscoChinatown.com
<http://www.sanfranciscochinatown.com/index.html> (最終閲覧日 : 2017年 2月14日)
- Yung, Judy and the Chinese Historical Society of America (2006) : *San Francisco's Chinatown*. Arcadia Publishing, San Francisco.

英文タイトル

The Development and Transformation of the Chinatown in San Francisco: From the Original Chinatown of the Gold Rush to New Chinatowns

YAMASHITA Kiyomi